



シャネル銀座店とルイヴィトンビル前でエレガントな女性が多く、ファッション誌を愛する人も多く見られる。

モード写真家、シャantal・ストマンによる東京ルポルタージュ パリジェンヌが見た日本女性のエレガンス

「日本女性は美しい」。世界中でモードを振り続けてきたフランス人女性写真家にこう言われたら、どう反応するだろう。昨年、初来日に、日本女性の美しさと、とりわけ高級ブランドに対する情熱に魅せられたシャantal・ストマンは、東京を度々訪れ、街角で日本女性の美しさを追った。そこに焼き付けられた風景は、鮮やかに今の私たちの姿をエレガントに映し出す。

photos Chantal Stomax



真昼の女性と高級ブランド店の店頭。競争激化した展開にしてファンタジーを追求する。



ジュエリーを熱心に見つめる女性。真珠に惹きつけられる姿がそこにはある。



大団そうにショッピングバッグを両手に提げる女性。どんな宝物がそこには入っているのか――。



高級ブランドバッグを手にドラッグストアに入る女性。日本人にとっては見慣れた光景も、シンガポールでは珍らしい。

自分たちは美しい。私の写真を見て、 そのことに気づき、自信を持ってほしい

日本の女性たちは エレガントで美しい

「どこか懐かしささえ漂う、モノクロームの写真の数々。まるで小津安二郎の映画のヒトコマのように、そこには美しく静謐な時間が流れている……」

東京を舞台に、東京の女性たちを収めたこの写真を撮ったのが、フランス人の女性写真家だ。と聞いて、軽い驚きを感じた。

シャントル・ストマン、エルザ・レムで写真を学び、パリを拠点に、モード写真家として活躍してきた女性だ。彼女が東京を訪めて訪れたのは、意外にも昨年3月のことだった。

「まず、日本の女性たちがエレガントで美しいことに感銘を受けました。身に纏うものは一分の隙もなく、高級ブランドに大変な情熱を傾けている。まるで生きるためになくてはならない糧であるかのように、日本女性がモードに費やすエネルギーは、どこからわくのか、それを追いかけてみたくなって」

もともとシャントルは、モード写真家でも、プロのモデルで見せるあるひとつのイメージではなく、「街にいる普通の女性たちのそれぞれの美しさを切り取る」ような写真を撮ってきた。美を追いかけ世界中を旅してきた彼女が、最後に辿り着いたのが東京の女性たちだ。初めての来日以來、シャントルは熱に浮かされたかのように、度々東京を訪れ、高級ブランドのブティックが軒を連ねる銀座や表参道の街角に立つっては、日本女性たちの姿をレンズに捉えてきた。

東京の街角で 日本女性を撮り続けた

「何時間も待つのは、これほど思う人がいたら、声をかけて写真を撮らせてもらおうです。いろいろな話をしたり出会いがある。とても興味深かったわ」

一歩の先から尻尾まで、ひとつのブランドで固めているの、まだもつと賣りまわっている二人連れの女性、まだ15歳だというのに、超高級ブランドバッグを小脇に抱える女の子……

「ヨーロッパでは、そんなに若い子たちが高級品を身に纏う習慣はありませんし、日本女性は、モードに気を配ってはいない。やはり、日本の女性たちは特別なんです」

ヨーロッパで今まで紹介されてきた日本女性のイメージは、見事なまでに2つのタイプに限定されてきたという。着物姿のような伝統的なイメージと、エキセントリックな嗜好の若い子たちのイメージ。

「でも実際には、高級ブランド品をなにかしら上手に取り入れて、エレガントな嗜好を持った女性の方が圧倒的に多いでしょう。そんなありのままの日本女性の真実の姿をルポルタージュしたものは今までなかったのです」

それならば、それを自分が伝えたい。今の、日本女性の真の美しさとモードに傾ける情熱を、

ココ・シャネルがいたら、 シャントルを支えただろう

現在、高級ブランド熱は世界的に世界中に広まっている。高級ブランドに身を包んだセレブリティたちの影響だという声もあるが、日本の女性たちは、そんなブームが起こるずっと以前から、高級ブランドの価値を知り尽くし、その魅惑を自らの教養としてきた。時代の一歩も一歩も先を歩んでいた日本女性たちに、世界がようやく気づき始めた。そう言えるかもしれない。

「ええ、日本の女性たちは、私の 写真を見て、いい気持ちにな ってほしいの。自分たちが美し いと知り、自信を持ってほしい」

シャントルのプロジェクトの興味深さはすぐに評判となり、この2月にはシャネル・ネクサス・ホールにて展覧会を行うこととなった。代表取締役社長のリシャール・コラス氏は言う。

「写真に非常に興味を持っていて、現代にいたら、シャントルの仕事への情熱を支えたことは間違いないでしょう」

高級ブランドの美と日本女性が求める美とが、シャントルの作品の中で華麗に融合している。



パリのコレクティブのルポルタージュなどを得意とするシャントル・ストマン。昨年12月の来日時。

シャントル・ストマン写真展「A Woman's Obsession」
 シー・エル・ネクス・ホール（東京都中央区銀座3-5-3 シェネル銀座ビル4F）
 03-3264-2020 第26-26 時11:00~20:00 無料